

職場の教養

10

2025
OCTOBER

職場の教養

10月号

2025(令和7)年10月1日発行
(毎月1回1日発行)
第50巻10号 通巻1000号

編集人 三浦貴史
発行人 和田 毅

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rinri-jpn.or.jp>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会に毎月
無料で贈呈しています。入会のお申し込み、
お問い合わせは、倫理法人会事務局へ。

2026 今日の道しるべ 標語カレンダー



自社の住所・社名・ロゴ・
電話番号・企業理念
などが入れられます。
(表紙&31日分)

名入れのご注文を
承ります(100部~)

1,000部以上のご注文にも
対応いたします。

名入れ部分

寸法:ヨコ112mm×タテ35mm

表紙&31日分のカレンダーの下段に
御社のネームを印字し、PRできます。



定価 500円(税込)
発行/倫理研究所

[標語カレンダーのサイズ] ヨコ130mm×タテ380mm

お得なカレンダー
4点セット

2026
標語カレンダー
定価 500円(税込)

子育て
カレンダー
定価 700円(税込)

子ども
カレンダー
定価 700円(税込)

子育て
カレンダー
定価 700円(税込)

子ども
カレンダー
定価 700円(税込)

子育て
カレンダー
定価 700円(税込)

子ども
カレンダー
定価 700円(税込)

子育て
カレンダー
定価 700円(税込)

通常価格2,400円(税込)

特別価格 1,980円(税込)

子育てカレンダー(親向け)と、子どもカレンダー(子供向け)の内容が毎日リンク
子ども
カレンダー
標語の例
1日 よーいドン!サツと起きよう、元気よく
2日 あいさつは、いつでも誰にでも自分から
4日 おじいちゃんとおばあちゃんいたから私がいる

※子育てカレンダー、
子どもカレンダーは、
2017年発売当時と
同じものです。

ご注文方法

お届け先の《〒・住所・氏名・電話番号と品名・
部数》をご記入のうえ、右記いずれかの方法で倫理
研究所販売係まで。商品を3,000円(税込)以上
お買い上げの場合、送料無料で。代金は商品
に同封の郵便振替用紙にてお支払いください。

① ハガキ:〒102-8561(住所記載不要)
倫理研究所販売係宛
② F A X : 03-3239-7430
③ ホームページ
(右のQRコードから申込み可)



所属

氏名

一般社団法人 倫理研究所

今日の心がけ◆想定外の事態に備えましょう

「もうはまだなり、まだはもうなり」という言葉は相場の世界で語り継がれてきた格言で、教訓や戒めを簡潔に表わした「相場格言」として知られています。相場とは、商品や株式、債券などの価格を指すだけでなく、市場での価格変動によって生じる差額で利益を得る取引そのものを意味します。

この格言は、(もう高値(あるいは底値)に達した)と思つた瞬間に、さらに価格が動くことがあり、(まだまだ上がる(あるいは下がる))と思うと、すでに限界に達していることがあるという、予測の難しさを表わしています。

いつの時代でも、未来を正確に予測するのは困難であり、自分の思い描いた通りに物事が進むことの方が少ないのが現実ではないでしょうか。

日常生活や仕事においても、想定外の出来事は常に起こり得ます。不測の事態に備えるには、他者の意見に耳を傾ける柔軟さと素直さが重要です。

広い視野を持ち、多様な考え方を受け入れる姿勢こそが、想定外の事態への備えでもあると言えるのではないのでしょうか。

日本では、食事の前後に「いただきます」「ごちそうさま」と挨拶する習慣を大切にしていますが、そこには、形式以上の深い意味が込められています。

食事とは、太陽の光や熱、水、土など、自然の恵みによって育まれた動植物の「生命をいただく」ことで、自らの命をつないでいく行為です。

さらに、食材が食卓に並ぶまでには、多くの人々の働きがあります。農業・漁業などの一次産業に始まり、加工・調理、物流、卸・販売に至るまで、実に多様な工程に携わる人々の働きによって、今日も食事を摂ることができるのです。

こうした事実に基づき、食への意識を変えることで、食べ残しが減り、必要な分だけを、丁寧に、ゆっくり噛みしめながら味わう機会が増えていくでしょう。

その結果、心身の健康にも良い影響がもたらされます。

習慣として形式的になつていたとしても、食前・食後の挨拶を心がけることは大切です。自然の恵みとすべての生命、多くの人々の働きに対する敬意と感謝の気持ち深めて、つつしんで食事をいただく姿勢を大切にしたいものです。

今日の心がけ◆食事の挨拶に敬意を込めましょう

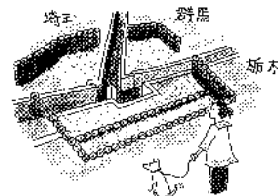
日本再発見! -境界・飛び地編-

三県境

(埼玉県加須市・栃木県栃木市・群馬県板倉町)

全国に40カ所以上ある「三県境」のほとんどは、山中や川の中にあり、容易に行くことができない。唯一、平地に存在し、歩いて訪れることができるのが、埼玉・栃木・群馬が接する三県境だ。真鍮製のプレートが埋め込まれたコンクリー

ト杭には三県の名と経緯度が刻まれ、記念スタンプも設置されている。2市1町が周辺の土地を買い取り、2018(平成30)年に遊歩道を整備した。わずか3歩で3県を踏破するというレアな体験が可能だ。



今日の心がけ◆言葉遣いを見直しましょう

昔から「人の振り見て我が振り直せ」と言われますが、実際には自分の言動を客観的に見るのは難しく、「自分は相手とは違う」と思い込んでしまいがちです。ある日、Sさんが七歳の息子に「今日の宿題は終わったの？」と尋ねたところ、息子は不機嫌そうに「はあ？」と返してきました。

その態度に苛立ちを覚えたSさんは、「はあ？ じゃないだろ。終わったのか聞いているんだよ」と少し強めの口調で言い直しました。すると息子は、「もう終わっているよ。お父さんはうるさいな」と生意気な口調で返してきました。

翌日、Sさんがこのやり取りを職場で話すと、後輩から「息子さん、先輩にそっくりですね」と笑われました。思わずSさんは「はあ？」と返してしまい、その反応に後輩はさらに笑いながら「ほら、やつぱり」と言いました。

その瞬間、Sさんは自分の言動が息子に影響していたことを痛感し、深く反省しました。そして帰宅後、息子と言葉遣いについて話し合い、お互いに気をつけることを約束したのでした。

今日の心がけ◆誠実な対応に努めましょう

先日、南米から観光で来日したTさんは、テーマパークで財布を紛失してしまいました。財布の中には、免許証、クレジットカード、新幹線のチケットなど、重要なものがすべて入っており、深く落胆してしまいました。

Tさんは、日本人の知人であるJ氏に助けを求めました。J氏は親身になって、警察や公共交通機関などに連絡を取り、遺失物の確認を行なってくれたのです。すると、財布は、拾った人がすぐに届けてくれたことがわかりました。

この知らせを受けたTさんは、言葉にできないほどの喜びを感じ、「私の国では落し物が見つかることは奇跡なのです。もし落し物が見つかったらテレビのニュースになるくらい珍しいことなんです」と興奮気味に語りました。

この出来事を通じて、Tさんは改めて、社会は誰かの誠実な行動によって支えられているのだと実感し、日本の安全性や人々の倫理観に感心したといえます。誠実な姿勢は信頼の土台となります。お客様への丁寧な対応、同僚との協力など、小さな積み重ねが、会社の信用を築き、職場の人間関係を深めていくのです。

日本再発見! -境界・飛び地編-

足柄峠

(神奈川県南足柄市・静岡県小山町)

2024(令和6)年9月で第53回目を迎えた「足柄峠まつり」は、南足柄市と小山町が合同で開催する地域の伝統行事だ。祭りの目玉は「領地争奪綱引き合戦」で、足柄城跡広場を舞台に両市町が領有権をかけて戦う。その結果に応じて

「相模之國南足柄領」または「駿河之國小山領」の看板が立てられ、その年は象徴的に「領地」が移るという遊び心のあるもの。子供を含めた地域住民や両市町の有力者からも参加し、地域の絆を深めている。



「天高く馬肥ゆる秋」は、秋の素晴らしさを表わす諺の一つです。

由来は中国の故事にあります。中国北部にいた騎馬民族(匈奴)が攻めてくる季節は、馬が肥えて、空が高く澄む秋が多かったようです。諺の元々の意味は、「敵の襲来に警戒せよ」という、周囲へ注意を促すものだったといえます。

日本では言葉通りに、気候も良く、馬がよく肥えるほど草を食べる様子から、秋は自然が豊かで実りの多い季節という肯定的な意味で親しまれています。時候の挨拶などで用いる人もいます。

秋は、春に蒔いた種が実を結ぶ季節です。これは自然界だけでなく、私たち自身にも重ねて考えることができます。

努力を積み重ねていると、次第に成果が見え始めるものです。過ぎしやすいこの季節に、過去の自分を振り返り、新たな目標に向けて歩み出しましょう。

空が高く澄み渡る秋に心を晴れやかに保ち、地に足をつけながら、自身の内面を豊かに育てていきたいものです。

今日の心がけ◆美りの秋を楽しみましょう

仕事を進めていく中で、「右に進むか、左に進むか」といった判断を迫られる場面に遭遇します。決断を迫られると、誰しも少なからず迷うものです。

中間管理職のTさんは、ある日、上司から指示された仕事をどう進めればよいのか分からず、悩んでいました。そんな時、部下の一人が声をかけてきました。

事情を聞いた部下は、話し合いながら対策を練ることを提案しました。そして、彼が質問し、Tさんがそれに答えていくという形で、やり取りが始まりました。

まず「仕事の目的と目標は何か」という問いから始まり、次に「目標達成に必要な情報は何か」「求められる行動は何か」と、質問は段階的に進んでいきます。

さらに、「必要事項の伝達方法」「計画の進捗状況の確認方法」「職場環境の整備」といった内容にまで話は及び、最終的には、計画が無事にまとまりました。

Tさんが「なぜ、このように考えられるのか」と尋ねると、部下は「Tさんからの指示は、いつもこのように整理して考えて進めています」と答えたそうです。考え、悩むにも順序や手順があることを、部下との対話で学んだTさんでした。

今日の心がけ◆適切な業務計画を立てましょう

日本再発見! -境界・飛び地編-

まごめ
馬籠
(岐阜県中津川市)

かつては長野県山口村に属していたが、2005(平成17)年の「平成の大合併」により全国で唯一、県境を越えて「引越し」した地域である。中山道木曾路の宿場町である馬籠宿は、文豪・島崎藤村の故郷であり、代表作である小説「夜

明け前」の舞台だ。もともと交通・経済などは中津川市とのほうが関係が強く、県をまたいで合併に至った。現在も宿場の風情が残り、標識や看板などに旧長野県時代の名残を見ることができる。



今日の心がけ◆文化と歴史を学びましょう

国連の組織であるユネスコが定める世界遺産のリストには、日本から二十六件が登録されており、その内訳は自然遺産が五件、文化遺産が二十一件です。近年では、令和六年に新潟県の「佐渡島（さど）の金山」が文化遺産として登録されました。この遺産は鉱山採掘の機械化が進んでいた近世において、伝統的手法による生産技術と生産体系を進化させたことが評価されています。

他の文化遺産には、「北海道・北東北の縄文遺跡群」や「厳島神社」「姫路城」など日本文化のルーツを辿れるものから、近代史を語る上で欠かせない「原爆ドーム」「富岡製糸場と絹産業遺産群」などが登録されています。

これらの遺産に触れることで、日本の歴史を肌で感じ、日本を作り上げた先人たちの生きた軌跡や積み重ねられた知恵の結晶を垣間見ることができるよう。歴史を学ぶということは、私たちが生きてきたルーツを学ぶことにほかなりません。時には過去を振り返って、数多の人々が故郷を作り上げてくれたことに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

今日の心がけ◆互いの違いを理解し合いましょ

今年三月の訪日外国人数は約三百五十万人に達し、前年同月比で一三・五％の増加を記録し、三月としては過去最高の数字を記録しました。

このような状況の中、主要な駅や空港、繁華街など、様々な場面で外国人旅行者の姿を目にする機会が増えたようです。異文化交流が活発になる一方で、文化や価値観の違いから、日本人との間に誤解やトラブルが生じることもあります。

国が違えば、そこで暮らす人々の価値観や習慣が異なるのは当然でしょう。違いを一方的に否定してしまえば、摩擦や不快感しか生まれません。互いが気持ちよく生活するには、相手の文化や価値観を理解しようとする姿勢が求められます。

この考え方は、国際交流に限らず、私たちの職場や日常生活にも当てはまります。人はそれぞれ異なる人生経験を持ち、世代、性別、職場でのキャリア、担当業務などによって、物事の見方や価値観は大きく異なります。

違いを対立の原因とするのではなく、多様性があるからこそ、新しいアイデアが生まれ、組織や社会が活性化していくのだと、前向きに捉えていきましょう。

日本再発見！一境界・飛び地編-

いしま いしま
石島・井島
(岡山県玉野市・香川県直島町)

県境をまたぐ島は全国に数カ所あるが、有人島なのはこの「いしま」だけである。おもしろいことに同じ島でありながら、岡山県玉野市側は「石島」、香川県直島町側は「井島」と表記され、どちらも「いしま」と読む。現在、集落があり

人が暮らしているのは北側の石島のみで、かつて石切場があった南側の井島は、無人地帯となっている。江戸時代の漁業権をめぐる争いから県境が決められたが、実は一部の県境はいまだに確定していないという。